

今回は、1年次生・市原柳奈子さんの米国留学レポート(1)です。

私は、7月末からアメリカのテキサス州でホームステイをしています。約1年間米国留学をします。まず、留学のための必要な手続きに関わってくださった関高校の先生方、支援金を交付してくださった岐阜県教育委員会の皆さま、手厚いご支援をありがとうございました。多くの方々の手助けがあってこそ今、私は留学することができています。

なぜ私が留学を考えたのかという理由は、まず、私は普段から多くの経験をしたいと考えているからです。私はまだ、将来自分は何をしたいのか明確に決まっていません。将来の道を切り開くためには、たくさんの経験を積むことが大切だと思います。そして、米国留学をすることで、日本では経験できないことがたくさんできると思ったからです。

また、私は文化交流に興味を持っています。自国の文化を広めるだけでなく、他国の文化に触れあうことで新たな考え方を持つことができると思いますし、それが大きな経験になると思います。特にアメリカは多文化社会であるので、それぞれのバックグラウンドをもつクラスメートとかかわることで、様々な文化交流ができると考えました。

私が留学の準備を本格的に始めたのは中学2年生の時からです。その時から、学校以外での英語の学習をはじめました。中学3年生の夏頃から留学支援団体に加入し、留学に必要な書類の準備やさらなる英語力の向上のため着々と準備を進めました。

出発の直前期、私は自分が留学をするということにあまり実感のわかないまま、関高での残りの学校生活を過ごしていました。私の場合、夏休みが始まって約1週間後の出発だったため、学校の課題や部活動などに追われながら、留学の準備をしていました。スーツケースの準備をしつつ、日本の文化や私の住む地域の文化などを伝えられるものなどの準備をしました。具体的には、浴衣、自分で書いた美濃和紙、オリジナルのペンや日本のキャラクターのTシャツ、漢字のステッカーなどを用意しました。また、出発空港が羽田空港だったため、行く途中、東京のことも少しでも知っておくために浅草寺へ行くなど、東京観光もしました。私のホストスクールでは水曜日に大学のTシャツを着ることになっていると聞いていたので、東京大学に寄り、東大Tシャツを手に入れました。(事前に北海道大学のTシャツも準備して持っていきました。)

私は飛行機に乗る経験もあり、海外に行く経験もありました。ですが、それは一人ではありませんでした。今回は一人で、かつロサンゼルスでの乗り換えがありました。そのことにすごく不安を抱きながら出国へと向かっていきました。出国手続きは日本だったので安心して終わらせることができました。日本からロサンゼルスへの飛行機では、客室乗務員も乗客も日本人はほぼおらず少し緊張しましたが、国際線で映画を見ることができたので、長時間の飛行機もなんとかなりました。

ロサンゼルスに到着し、入国審査などを終え荷物を受け取り、乗り継ぎのためのカウンターを探しました。乗り継ぎカウンターを探しているとき、大きな空港だったため、迷子になってしまうハプニングもありましたが、「カタカタ英語」でスタッフに聞いていくべき場所まで連れて行ってもらい、解決することができました。乗り継ぎについてすごく心配していたので、その場にスタッフがいたことに安心しました。荷物検査など様々な面で戸惑ったことがありましたが、スタッフの人や周りの人に助けられながら乗り継ぎを終えることができました。

乗り継ぎ後、飛行機は国内線だったので国際線よりも短い時間でヒューストンに到着することができました。ヒューストンに到着し、荷物を受け取る場所へ行くと、ホストファミリーは、「Welcome Nanako」というカードとともに私を待っていてくれました。そのカードを見て、張り詰めていた緊張がほどけ、新しい生活にワクワクする気持ちでいっぱいになりました。今はホームステイを初めて1か月ほど経ち、学校生活や日々の生活にもだいぶ慣れてしまし

たが、最初の頃は道路、トラック、スーパー、食べ物などの大きさに驚き、新たな発見ばかりでした。私がテキサスに着いたのは、アメリカの夏休みの後半だったので、ホストファミリーは私をいろいろな所へ連れて行ってくれました。ビーチ、メキシコ料理店、ウォーターパーク、プール、ショッピングモールなどです。私は自分自身の英語のスキルにあまり自信が持てなかったのですが、彼らがいろいろな所へ連れて行ってくれたおかげで、少しはその緊張もほぐることができました。様々な物の大きさの違い、普段の食べ物の違い、気温の違い、など文化や地域の違いを多く感じています。

学校が始まって少し経ち、学校生活にも慣れてきました。アメリカの学校では、生徒が教室に移動するタイプで、日本でいうホームルームがありません。また、私の学校では毎日同じ7科目を受けます。私が選択した科目は、コーラス、Algebraという代数学、英語、アメリカ史、フラワーデザイン、海洋生物、水泳です。水泳は、授業とかねてチームに所属する形なので、授業ですが部活動のような感覚です。日本では水泳部に所属しているので、この授業を選択しました。もともと、フラワーデザインではなく、スピーチをとっていたのですが、少しハードで、授業が合わなかったりしたので、科目変更をしました。日本と違って、どの教科も自分で選び、変更もすることができます。科目変更は珍しいものではないそうです。授業は、もちろん全て英語なので、自分自身にとって難しい授業は先生に、「自分は留学生で難しいときは辞書を使うことがある」ということを伝え、今は状況に合わせて辞書とともに授業を受けています。また、教科書やワークブックが配られることはなく、先生が準備したテキストや問題などを授業で使ったり、宿題としてやったりしています。定期的にテストは行われますが、7科目だけなので、英語の面以外ではものすごく厳しいわけではありません。最初のひと月を振り返って、慣れないことばかりで、戸惑ってしまうことが多く、あまり積極的になれないことばかりですが、コミュニケーションのため英語の学習に取り組むだけでなく、授業についていくため復習を徹底することなど自分にできることを行い頑張っています。人とのコミュニケーションが大切だと思うので、多くの人と関わることを大切にし、積極性をもって生活を送っていきたいと思います。クラブ活動にも参加し始めたので、次号ではそのことについてもレポートできたらいいと思っています。







- 1: 7月27日ヒューストン空港到着
- 2: 到着時のウェルカムボード
- 3: ホストファミリー・友達と町でアイスクリーム
- 4: ホストファミリー・友達とナイトプール
- 5: ホストファミリーとピンクの服を着て、映画『バービー』
- 6: 海沿いの町でホストシスターと。①
- 7: 海沿いの町でホストシスターと。②
- 8: 運動部チーム名 Tigers にちなみ、虎の壁画が学校にあります。
- 9: 科目登録に行きました。正面玄関にて。
- 10: ホストファミリーと海(メキシコ湾)に行きました。
- 11: ホストシスターとゲーム。
- 12: ホストファミリーとメキシコ料理